WEEKLY　REPORT

郡上八幡ロータリークラブ

国際ロータリー第 2630 地区
東海北陸道グループ

世界に希望を生み出そう

例会日：毎週木曜日　12 時 30 分
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設２F)
TEL(0575)67―0314　FAX(0575)67－0005
E-mail:rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
URL:http://gujohachiman-rc.com/

会　　長　：三原慎也
副 会 長　：野田三津雄
幹　　事　：西村　肇
公共イメージ　：松森　薫
会報担当者　：田中義久

2023 年度国際ロータリー会長：ゴードン R. マッキナリー(ｻｳｽ･ｸｲｰﾝｽﾞ ﾌｪﾘｰ ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ･ｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞ)
2023 年度国際ロータリーテーマ：CREATE HOPE in the WORLD（世界に希望を生み出そう）

＜本日のプログラム＞
第 2834 回　令和 5 年 8 月 24 日　第 4 木曜日
会員卓話　　可児一彦会員
IM 打合せ

＜次回の予定＞
第 2836 回　令和 5 年 9 月 7 日　第 1 木曜日
月見例会

＜前回の記録＞

第 2832 回　令和 5 年 8 月 10 日　木曜日
物故者法要

司 会 進 行　竹内巧治副 SAA

点　　鐘　三原慎也会長

ソ　ン　グ　我等の生業

来 客 紹 介　竹内巧治副 SAA
最勝寺副住職　多田専宗様

物故者法要
最勝寺副住職　多田専宗様による読経

出 席 報 告　森下　光出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
36 名	28 名	2 名	30 名	83.3%

ニコＢＯＸ　國田大雄ニコ BOX 担当責任者

・本日は物故者法要です。最勝寺様、宜しくお願いします。　三原慎也
・最勝寺様、物故者法要、法話宜しくお願いします。　西村　肇
・結婚記念日のお祝をありがとうございました。　野田三津雄
・最勝寺　多田専宗様、物故者法要宜しくお願いします。
　遠藤一史・平岩あゆみ・平岩憲政・廣瀬泰輔
　岩出明喜・岩尾　誠・可児一彦・河合　修
　國田大雄・松本英樹・松森　薫・水上成樹
　森下　光・村土時男・長尾信幸・永瀬和郎
　野田三津雄・信田清久・小笠原正道・酒井智義
　坂本　仁・竹内巧治・田中義久・渡邉　剛
　徐　飛・山下友幸

幹 事 報 告　西村　肇幹事

・RI 日本事務局より My Rotary のデザイン変更について
・ガバナー事務所よりシンガポール国際大会チラシ
・ガバナー事務所より秋田豪雨災害支援金ご協力のお願い
・篠原ガバナーより新しいクラブ発足のお願い
・ガバナーエレクト事務所より分担金送金のお礼

＜拝受＞
・関中央、郡上長良川　各 RC より週報
・郡上市より「広報　郡上」8 月号

会長の時間　三原慎也会長

皆さん、こんにちは。本日は物故者法要ということで、最勝寺様ありがとうございました。

明日は休日ですので、明日からお盆休みという方も多いと思います。私の父も7年前に亡くなってもう時間が経ちますが、まだ毎月、月命日にはお寺様に来て頂き、阿弥陀経をあげて頂いています。その阿弥陀経の中に、今日本で使われている数字の単位が出てきます。恒河沙(ごうがしゃ)とか不可思議(ふかしぎ)など、お経の中に出てくる言葉が数字の単位です。一度調べたことがありますが、ガンジス河の砂の数だということが書いてありました。皆さんも祖先の方を色々と思って、このお盆を過ごして下さい。

法　　話　最勝寺　副住職　多田専宗様

皆さん、こんにちは。はじめましてとご挨拶させて頂く方と、ご無沙汰しておりますとご挨拶させて頂いた方がいらっしゃいます。私、最勝寺から参りました多田専宗と申します。今年39歳になりました。近況報告させて頂きますと、三年ほど最勝寺に帰ってきておりましたが、今は名古屋に住んでおります。先ほど竹内先生からもお話がありましたが、精神疾患をお持ちの患者さんのお薬を先生方にご紹介をさせて頂く、MRという仕事をしておりました。でも、その仕事が非常に転勤が多くて、今真ん中の娘が小学校一年生なんですが、保育園を五つ行きました。なので、もうそろそろちょっと落ち着きたいなというところもあって、最終的には最勝寺を守らせてもらわないといけないというところから、今は外資系の保険会社でライフプランナーという仕事をさせて頂いています。

今日は先ほど、正信偈をあげさせて頂きましたが、なかなか耳馴染みのないふしだったのではないかと思います。私が属している最勝寺は、西本願寺、お西さんの宗派で、郡上に25ヶ寺しかありません。じゃあ一方で、お東さんは何ヶ寺あるかご存じですか。この郡上で100ヶ寺あります。実は、四分の一くらいしかお西のお寺というのはないというところで、できるだけお西の正信偈のふしも皆さんに馴染んで頂きたいなと思い、あげさせて頂きました。今日初めてこちらの会場入らせて頂きましたが、私も小さい時にお世話になった先輩方のお写真が何名かあります。こうやって先輩方が守ってきてくださったものであったり、思いであったり、そういうのをこのお盆という期間に、皆さんお仕事で大変お忙しくされていらっしゃるかと思いますが、この亡き人を忍んでいくと同時に、私達が亡き人から願われている、そういう人の想いに触れて頂く、そんな時期にして頂けたらなと思います。今日もすごくいい天気になりました。いい天気になれば暑い暑いと文句が出ます。でも半年経てば、今度は寒い寒いとまた文句が出ます。今はまだ私も体は元気ですが、年を重ねていけば膝が痛くなったり腰が痛くなったりします。私の祖母が晩年、「体は痛くなるけど、口は痛くならない。だから私は文句を言い続ける」と言っていました。口から文句や愚痴、不平不満が出てきますが、この口から南無阿弥陀仏という仏さんが出てきてくださいます。私たちの口から出てくるということは、先にお働きが私たちに届いているから、この口から南無阿弥陀仏というふうにこぼれ出てくるのではないかなと思うわけです。私たちが子育てをしている中で、お父さんお母さんという言い方と、パパ、ママと言われる家庭と、多分それぞれの方針によってあると思います。私がパパだよ、パパだよと言えば、多分子供は私のことをパパと呼ぶでしょうし、お父さんだよ、お父さんだよと言えば、私のことをお父さんと呼んでくれるように、先にお働きがあって私たちに届いてることしか、この口からはなかなか出てこないのではないかなと思います。この南無阿弥陀仏、簡単なひとフレーズになりますが、阿弥陀様という仏様が、私たちのことを心配に思ってくださって、「我が救う。任せよ。」と言うお呼び声の言葉が、南無阿弥陀仏というお念仏になります。正信偈の冒頭、帰命無量寿如来と始まります。帰命というは、帰るという字と命という字が当てられていますが、この命というのは、口で命令をするといった意味合いで漢字が当てられています。私たちに、南無阿弥陀仏と口に出してお念仏申してくれよ、という願いです。私たちは、この令和の時代でも何も変わらず、こうやって仏様が願い続けてくださっている命をこうして生かさせて頂いています。私たちは死んでいくのではなく、生まれさせて頂く。何に生まれさせて頂くかというと、仏様として極楽浄土に生まれさせて頂いた後、亡き方が私たちのことが心配でずっと見守ってくださっている、そういう存在に私たちもならせて頂く。そんな人生だからこそ私は、人生は尊いところが多いんじゃないかなと感じるわけでございます。

拙いところもありましたが以上とさせて頂きます。暑くなってきましたので、皆さん体調に気をつけてお過ごし下さい。